

【4】共通教材のねらい

児童生徒の発達段階に応じた育てたい力（〔第三次取りまとめ〕より）

	発達段階（〔第三次取りまとめ〕を参考）	「人権に関する知的理解」や「人権感覚」を育てる教育
小学校 低学年 （七 ～ 九歳）	<p>想像力、言葉による理解力、認識力が次第に育ってくる。また、自分の生活とは別に、次第に他者のことや歴史的な事象にも思いを馳せることができるようになってくるが、まだ幼児期の特性も残っている。</p> <p>このような特性を踏まえて、人権教育においても、生活体験に基づく「気付き」から想像力や認識力に訴えて深い理解に導くような配慮が必要である。また、絵本やお話の本などを活用することで、想像力を育てることも大切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 相手のことを考えない言動等のおかしさに気づき、自分の生活を振り返ろうとする態度を養う。 ② 友だちとの間で起こるトラブルについて、互いの意見を尊重しながら解決していこうとする意欲・態度を養う。 ③ 命の尊さを学び、自分の生活や成長には、家族や多くの人の支援があることを理解する。 ④ 自分の周りで、高齢者や障がいのある人、外国人など、さまざまな人々が暮らしていることに気づき、主体的にさまざまな生活や文化にふれようとする意欲・態度を養う。
小学校 高学年 （十 ～ 十二歳）	<p>言葉の数も増え、概念を理解し、抽象的な思考が深まっていく時期である。認識力、分析力、批判力等も身に付くようになり、自意識も次第に強くなる。</p> <p>この段階の児童は、そうした諸能力の発達の結果、人権の意義や重要性を知的に理解することができるようになる。しかし、その知的理解が抽象的なものに止まらないためにも、体験的な学習を併用して、具体的人権問題を直感的に「おかしい」と認知する感性の育成を図ることが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 噂や偏見等が人権侵害につながることを学び、自分の生活を振り返り、偏見や差別をなくしていこうとする態度を養う。 ⑥ 集団生活を通し、互いの個性や良さを認め合い、支え合える友だち関係を築こうとする意欲・態度を養う。 ⑦ 様々な人と出会い触れ合うことで、相手の立場にたって考え行動しようとする意欲・態度を養う。 ⑧ 基本的人権について学ぶ。 ⑨ 同和問題、障がい者や外国人等の人権課題についてその歴史や現状などを理解し、課題の解決に向けた考え方を学ぶ。
中学校 （十三 ～ 十五歳）	<p>内省的傾向が顕著になって自意識も一層強まる。自立した主体的な個であるという自意識と、実際に置かれている状況や生徒自らの実態との乖離に悩む時期でもある。他者との関わり方、生き方についての悩みも深まる。他者との関係では、特定の仲間集団の中に安息を見出し、仲間特有の言語環境で充足感を覚え、排他的であることをよしとし、広く他者と意思疎通を図ることに意識が向かわない傾向もある。</p> <p>こうした青年初期の特色を理解した上で、生徒の自己肯定感を育てるとともに、多様な生き方の在り方や様々な価値観を持って生きる他者の存在を、知的にも感覚的にも受容できるように導く学習が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 基本的人権について、身近な生活の中から具体的な内容を学び、自他の人権を尊重する意欲・態度を養う。 ⑪ 同和問題、障がい者や在日外国人等の人権課題について、その歴史的背景や現状などを正しく理解し、課題の克服に向けた方法などを考え、実践しようとする意欲・態度を養う。 ⑫ 情報化にともなう人権課題の現状を正しく理解し、課題を解決していくための方法などを考え、実践しようとする意欲・態度を養う。 ⑬ 自分自身を客観的に捉え肯定しながら、より向上していこうとする意欲・態度を養う。 ⑭ 自ら困難を切り拓いていこうとしている人々の生き方に学び、自己と重ね、これからの生き方について考え、よりよく生きようとする主体的な態度を養う。

◎共通教材一覧(1年生・2年生・3年生)

学年	教材名	教材の持つ性格 活用上のねらい	教材のねらい(育てたい価値・態度、知識、技能)	「特別の教科 道徳」での対応(参考例)	
				視点・内容項目	学びに向かう「問い」
小1	選択 「おんな・おとこ」 「どうしてかな？」 (性)	③問題提起	○日常的に潜む性別による決めつけた見方のおかしさに気づく(知識的側面) ○性別にとらわれずに自分らしさを大事にしようとする意欲態度を育てる(価値・態度的側面) ○相手の立場に立って共感的に理解したり、決めつけた見方を見極めたりすることができる(技能的側面)	A 自分自身 ・個性の伸長	「おとこ」「おんな」について考えよう。
	「さるとかに」 (反差別)	④問題解決	○すべて生き物の命は平等であり大切なものであることがわかる(知識的側面) ○弱いものを見下す不合理さに気づく(価値・態度的側面) ○自分に嫌さことをされたときに、伝えることができるコミュニケーション技能(技能的側面)	A 自分自身 ・善悪の判断	いやなことをされたときにはどうしたらいいかな。
小2	「であえるといいね」 (多様性)	②生き方の見直し	○自分の周りや世界には様々な人が暮らしていることがわかる(知識的側面) ○違いを認め、共に生きようとする気持ちを持つ(価値・態度的側面) ○他者の痛みや感情を共感的に受容できる想像力や感受性をもつ(技能的側面)	B 人との関わり ・親切、思いやり	みんなのまわりや世界には、どんな人がいるかな。
	「一本のはし」 (連帯)	④問題解決	○他者の立場になって考え、連帯して課題解決に向かおうとする気持ちを育てる(価値・態度的側面) ○非攻撃的で互いにプラスになる解決法を考える(技能的側面)	B 人との関わり ・友情、信頼	なかよくなるために大事なことはなんだろう。
小3	「あの子」 (いじめ・うわさ)	①見識の拡大	○噂が差別につながることを理解する(知識的側面) ○噂を見抜き、止めようとする意欲・態度(価値・態度的側面) ○不確かな情報に惑わされないために自分自身で確かめようとする(技能的側面)	C 集団や社会 ・公正、公平、社会正義	「うわさ」について考えよう。
	選択 「ドッジボール」 「どうしたらいいんだろう？」 (正義・仲間)	③問題提起	○ルールは皆が気持ちよく過ごせるためにあることがわかる(知識的側面) ○ごまかしや正しくないことを見過ごさず公正を尊ぶ意欲・態度(価値・態度的側面) ○正しいか正しくないか見極める(技能的側面)	A 自分自身 ・善悪の判断、自律、自由と責任	《ドッジボール》 どうしたら正しいことを伝えられるか考えよう。 《どうしたらいいんだろう》 いじめに対して悪いと言える勇氣について考えよう

全学年共通 わたしのいもうと(『はじめ』を考える集会での読み聞かせや学習などで活用)

◎共通教材一覧(4年生・5年生・6年生)

	教材名	教材の持つ性格 活用上のねらい	教材のねらい(育てたい価値・態度、知識、技能)	「特別の教科 道徳」での対応(参考例)	
				視点・内容項目	学びに向かう「問い」
小4	「よめなかった作文」 (仲間)	③問題提起	○きめつけた言葉や態度が相手をかたくなにさせることを理解する (知識的側面) ○目に見える言動だけで判断せず、その背景にある行為の理由を理解しようとする (価値的・度的側面)	B 人との関わり ・相互理解、寛容	友達を理解するってどういうことだろう。
	『『かたち』になったバリアフリー・『こころ』のバリアフリー』 【補助資料】 ・「光は出会いから見えてきた」 (障がい者差別)	①見識の拡大	○障がい者の立場になって思いや願いを考えようとする (価値・態度的側面) ○すべての人が生きる社会の在り方を知る (知識的側面) ○状況に応じて障がい者を支援する方法がわかる (技能的側面)	B 人との関わり ・親切、思いやり	かたちにならないバリアフリーとはどんなことだろう。
小5	「ゆたかくんだからおうえんするの？」 (障がい者・他者理解)	③問題提起	○障がいのある人もない人も一人の人間としてかけがえのない存在として大切にしようとする (価値・態度的側面)	B 人との関わり ・友情、信頼	本当の友情ってどんなことだろう。
	「木曾の小太郎」 (科学的認識・偏見と差別)	④問題解決	○迷信が差別につながるということ(知的側面) ○真実を求め、正しいことを貫くために行動を起こそうとする (価値・態度的側面)	C 集団や社会 ・公正、公平、社会正義 A 自分自身 ・希望と勇気	迷信を信じてしまう人間の心を考えよう。
小6	「タオの体験～外人といわないで～」 (在日外国人)	③問題提起 ②生き方の見直し	○日本には様々な民族や国籍の人たちが生活している (知識的側面) ○互いの違いを認め合いながら共に生きようとする (価値・態度的側面) ○自分の思いを伝えると同時に相手の思いを受け止める (技能的側面)	C 集団や社会 ・公正、公平、社会正義	外国の人たちと生活するとき、どんなことを大切にしたらいいか。

全学年共通 わたしのいもうと(『はじめ』を考える集会での読み聞かせや学習などで活用)

小6	みんなが輝けるために	<ul style="list-style-type: none"> “自分を大切に”からはじめよう (自己肯定感) 人権に関わるきまり (権利と責任) 	③問題提起	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の存在の大切さに気づき、それぞれを尊重していこうとする (価値・態度的側面) ○一人ひとりの自由、権利や責任などにかかわる「きまり」について知る (知識的側面) 	A 自分自身 ・個性の伸長 B 人の関わり ・相互理解、寛容 C 集団や社会 ・規則の尊重	自分自身を大切に するってどういう ことかな？
		<ul style="list-style-type: none"> 山田少年の訴え (部落問題(同和問題)・連帯) 	①見識の拡大 ②生き方の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○山田少年をはじめ被差別部落の人々が、差別に向き合い、差別をなくそうと立ち上がった歴史が現在につながっている (知識的側面) ○正義・自由・平等の実現に向けて行動しようとする (価値・態度的側面) ○差別する側の意識を変えることが偏見や差別をなくしていく (技能的側面) 	A 自分自身 ・希望と勇気、努力と強い意志 C 集団や社会 ・公正、公平、社会正義 D 生命や自然、崇高なもの ・よりよく生きる喜び	どうして「差別」は起きるのだろう。「差別」のない社会を創るためにどんな考えや行動が必要だろう。
		<ul style="list-style-type: none"> 広瀬淡窓と咸宜園 (人権尊重・郷土史) 	②生き方の見直し	○郷土の先哲広瀬淡窓の人間を尊重する考え方についての理解 (知識的側面)	D 生命や自然、崇高なもの ・よりよく生きる喜び C 集団や社会 ・伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	淡窓先生の考え方や生き方とはどういうものだったのだろう。

全学年共通わたしのいもうと

小・中学校全学年	教材名	教材の持つ性格 活用上のねらい	教材のねらい(育てたい価値・態度、知識、技能)	「特別の教科 道徳」での対応(参考例)	
				視点・内容項目	学びに向かう「問い」
	わたしのいもうと (いじめ)	①見識の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめが、心だけでなく命も奪ってしまうものであること (知識的側面) ○いじめにつながる相手の人権を傷つける軽はずみな言動を生活の中からなくしていこうとする (価値的・態度的側面) ○いじめられる人の立場に立って気持ちを共感的に理解する (技能的側面) 	D 生命や自然、崇高なもの ・生命の尊さ A 自分自身 ・善悪の判断、自律、自由と責任	「いじめ」は多くの人を傷つけ、不幸にする。どうしたらいじめをなくせるか、真剣に考えてみよう。

※人権学習等の人権教育カリキュラムは、各学校の児童生徒及び地域等の実態を踏まえた人権教育目標(『目指す子ども像』)を設定し、その達成を基盤とする編成、実施、評価をお願いしたい。

※上記一覧表に記載している「教材の持つ性格」「活用上のねらい」「教材のねらい」「『特別の教科 道徳』の対応」等は、参考例であり、教材本来の持つ性格やねらいを示したものであり、各学級における教材活用の範囲等を拘束するものではない。

※「共通教材」の実施については、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動(学級活動、児童・生徒会、学校行事等)のそれぞれの特性を活かし、相互を横断的視点で捉えた実施計画を設定し、系統的、効果的に行う。

※児童生徒を取巻く現状をとらえ、「いじめ」「インターネット」等をテーマとする人権学習については、「共通教材」に限らず、各学年に応じた取組を推進する。(資料としてシンククライアントシステム内のデータも使用可能)

※社会科等で、個別の人権課題について学習を行う場合は、その内容等を教職員間で共有できるような体制づくりを行う。

◎共通教材一覧(中学校)

学年	教材名	教材の持つ性格 活用上のねらい	教材のねらい(育てたい価値・態度、知識、技能)	「特別の教科 道徳」での対応(参考例)		
				視点・内容項目	学びに向かう「問い」	
中1	生きるっていいかい 「生きるっていいかい」	・生きるということ ・自分を好きに (生き方・自己肯定感)	④問題解決 ②生き方の見直し	○自分の今の生き方や人生観を見直し、自分の特徴を知ること、良いところをさらに伸ばそうとする意欲・態度の育成 (価値的・態度的側面) ○差別をなくそうと活動する人たちの生き方に共感し、自己を表現することの心地よさや表現の在り方の理解 (知識的側面) ○人として生きる権利の尊さの理解 (知識的側面) ○自他を尊重しようとする意欲・態度の育成 (価値的・態度的側面)	A 自分自身 ・向上心,個性の伸長 C 集団や社会 ・公正公平,社会正義 ・社会参画,公共の精神 ・遵法精神,公德心	私は、どんな大人になりたいのだろう。
		・山田少年の訴え (部落問題(同和問題)・差別意識・誇り)	①見識の拡大 ②生き方の見直し	○自分たちの生活の中にある差別につながる意識と身分制度を支えた民衆の差別意識の重なりについての理解、差別は差別する側の問題であること(知識的側面) ○差別を解消していこうとする意欲・態度の育成 (価値的・態度的側面) ※解放令以降の部落差別についての人権に関する知識理解の定着に留意 ○自らに誇りを持ち、相互の尊重を基盤として差別や不合理と闘う被差別民衆の生き方への共感的理解 (知識的側面) ○自己の内面を客観的に見つめ、自分の差別性と向き合いながら、それを克服していこうとする態度の育成 (価値的・態度的側面)	C 集団や社会 ・公正,公平,社会正義 ・社会参画,公共の精神	「解放令」が出たのに、「部落差別」はどうしてなくならなかったのだろう。
		差別をなくす取組と私たちの生活(部落問題(同和問題)連帯)	①見識の拡大	※「差別をなくす取組と私たちの生活」については別欄に記載 【資料】(中1～3)・教科書無償・統一応募用紙	A 自分自身 ・希望と勇気,克己と強い意志 C 集団や社会 ・公正公平,社会正義 ・社会参画,公共の精神	「差別をされた人たちは、なぜ、自分たちから「差別」をなくす取組を始めることができたのだろう。
		・「うばわれたもじをとりもどすなかで」 ・「ゆうやけがうつくしい」 (部落問題(同和問題)・識字・教育権・差別) ※参考資料 ・「青春学校学習仲間」の作文」	①見識の拡大 ②生き方の見直し	<～識字学級で学ぶ人たち～> ○部落差別や在日外国人差別等により学習権を奪われた実状についての理解(知識的側面) ○自己が背負う問題を切り拓いていく人間のすばらしさ・差別に負けない生き方への共感的理解(知識的側面) ○部落差別や在日外国人差別等に対し憤り、無くしていこうとする意欲・態度の育成(価値的・態度的側面)	D 生命や自然、崇高なもの ・よりよく生きる喜び C 集団や社会 ・公正,公平,社会正義	「学ぶ権利」を奪ったものとは、どんなことだろう。
中2	【補助資料】 「64歳中学生、夢の卒業」 (識字)	②生き方の見直し	○「学ぶこと」とは、自分の意志を育て困難に立ち向かう力や生きる力を獲得するあゆみの始まりであること(知識的側面) ○「学ぶこと」で生きることの素晴らしさを実感し、常に学ぼうとする生き方への共感的理解(知識的側面) ○学習権を奪われた人々の学びを支援するボランティアの活動や思いについての理解(知識的側面)	A 自分自身 ・向上心,個性の伸長 ・希望と勇気,克己と強い意志	私たちは、なぜ「学ぶ」のだろう。	
		「差別の壁をのりこえて」 (部落問題(同和問題)・結婚差別・差別をなくす意識構想)	②生き方の見直し ④問題解決	○理不尽な差別によって、幸福になろうとする権利が奪われることに対して憤り、その解決に向けてつながっていこうとする意欲・態度の育成(価値的・態度的側面) ○差別解消の主体者としての自覚及び、実践への意欲の深化(価値的・態度的側面)	A 自分自身 ・希望と勇気,克己と強い意志 C 集団や社会 ・公正,公平,社会正義 ・社会参画,公共の精神	もし、私が理不尽な「差別」を受けたとき、どうするだろう。
中3						

中 3	「親子の絆」 (障がい者差別 ・差別意識)	①見識の拡大 ②生き方の見直し	○自らの差別心と向き合い、本当のやさしさや助け合いの心について学ぼうとする姿勢への共感的理解 (知識的側面) ○障がい者の問題を、すべての人が同じように持っている人間としての基本的権利の問題として考えようとする意欲・態度の育成 (価値的・態度的側面) ○障がいのある人も含め、すべての人が、社会を構成する一員としてあらゆる活動に参加できる社会実現に向けての意欲・態度の育成 (価値的・態度的側面)	A 自分自身 ・向上心,個性の伸長 ・希望と勇気,克己と強い意志 C 集団や社会 ・公正,公平,社会正義 ・家族愛,家庭生活の充実	自分の中に「差別」する心はないだろうか。
中 1 〜 3	【新教材】 『『“文字”で伝え合うって…』～そんなつもりじゃなかった～』(SNSと人権) (※本教材の使用には生徒指導や技術科等との連携を図る)	③問題提起	○人権侵害につながりかねないSNS上でのコミュニケーションの特性について理解する (知識的側面) ○日常生活やインターネット上などの様々なコミュニケーションの場面に活かしていこうとする意欲態度の育成。 (価値的・態度的側面) ○ネット上の人権侵害を未然に防ぐための解決方法などの技能の育成。 (技能的側面)	A 自分自身 ・自主,自立,自由と責任 B 人の関わり ・友情,信頼 ・相互理解,寛容 C 集団や社会 ・よりよい学校生活,集団生活の充実	コミュニケーションで大切なことは何だろう。
	「在日コリアンとして」 (在日外国人・共生)	①見識の拡大 ②生き方の見直し	○在日コリアンの高校生が持つ日本人とかかわる過去、現在、未来への思いを理解し、共生社会のあり方を建設的に考える意欲・態度の育成 (価値的・態度的側面) ○差別問題は差別する側の問題であることについての理解(知識的側面) ○国際社会の一員として、人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能を育てる (技能的側面)	C 集団や社会 ・国際理解,国際貢献 ・公正,公平,社会正義 B 人の関わり ・相互理解,寛容	日本に住む外国籍にかかわる人々と一緒に暮らせる社会とは、どんな社会だろう。
	【資料】 「教科書のはなし」 (教科書無償) (部落問題(同和問題)連帯)	①見識の拡大	○生活の中に残る部落差別をなくす取組の意義と成果(国民全体の権利や要求行動と深く結び合っていること)についての理解(知識的側面) ○人権と憲法や国内法などとの関連性についての理解 (知識的側面)	C 集団や社会 ・社会参画,公共の精神 ・遵法精神,公德心 ・公正,公平,社会正義	「差別」をなくす取組が、社会をどう変えたのだろうか。(「教科書無償」の取組への思いを知ろう)
	【資料】 「統一応募用紙」 (就職差別・連帯)	①見識の拡大	○生活の中に残る部落差別をなくす取組の意義と成果(国民全体の権利や要求行動と深く結び合っていること)についての理解 (知識的側面) ○生活の中にある偏見や差別に繋がる視点など人権課題を学ぶうえで必要な知識の理解 (知識的側面)	C 集団や社会 ・社会参画,公共の精神 ・遵法精神,公德心 ・公正,公平,社会正義	「差別」をなくす取組が社会をどう変えたのだろうか(「統一応募用紙」の取組への思いを知ろう)

小中学校全学年 教材名「わたしのいもうと」については、全学年共通です。

※人権学習等の人権教育カリキュラムは、各学校の児童生徒及び地域等の実態を踏まえた人権教育目標(『目指す子ども像』)を設定し、その達成を基盤とする編成、実施、評価をお願いしたい。

※上記一覧表に記載している「教材の持つ性格」「活用上のねらい」「授業分類」「教材の中心的価値」「『特別の教科 道徳』の対応」等は、参考例であり、教材本来の持つ性格やねらいを示したものであり、各学級における教材活用の範囲等を拘束するものではない。

※「共通教材」の実施については、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動(学級活動、児童・生徒会、学校行事等)のそれぞれの特性を活かし、相互を横断的視点で捉えた実施計画を設定し、系統的、効果的に行う。

※児童生徒を取巻く現状をとらえ、「いじめ」「インターネット」等をテーマとする人権学習については、「共通教材」に限らず、各学年に応じた取組を推進する。

(資料としてシンククライアントシステム内のデータも使用可能)

※社会科等で、個別の人権課題について学習を行う場合は、その内容等を教職員間で共有できるような体制づくりを行う。